

公平な社会を築く ための一助になる

重山 尚美 Naomi Shigeyama

国税調査官

平成19年採用

調査部 調査審理課



Q. 現在の仕事内容は?

私の所属では、調査部で調査を行う大規模法人の申告書の記載内容の審理、調査部門からの税法解釈における相談対応、法人の経理担当者や関与税理士からの質疑対応業務を行っています。



Q. やりがいや、達成感を感じる時は?

現在所属している部署は、調査における所得金額を確定させる最後の砦として重要なポジションです。未然に計算誤りを発見した時や、調査部門からの調査の相談で対応したことが実になった時、また、日々のやるべき仕事をきちんと終わられた時など、小さな達成感の積み重ねが大きなやりがいに感じます。



Q. 今後チャレンジしたいことや今後の目標は?

私は国際分野の研修を受講してきたため、そこでの知識を活かして、国際課税の調査経験を積んでいきたいと考えています。また、最初の配属で仕事を教えてもらった先輩に、「すぐにできなくてもいい。あきらめずにやること。10年後に一人前になればいい。」と励ましていただいたことが非常に心に残っています。この先輩のように後輩の成長の手助けができるような職員になりたいと思います。



メッセージ Message

漠然と人の役に立つ公務員になろうと思っていましたが、説明会で「正直者が馬鹿を見る社会は嫌ですよね?」という言葉聞き、公平な社会を築くための一助になればと考えたことが、私がこの職場に決めたきっかけでした。また、ベテランの調査官と一緒に調査に行くと、一本筋の通った職人だと感じる事が多くあります。様々な経験をし、そういった先輩を見習いながら、自分に合った方法を取り入れていけば、あなたの個性や得意なことを活かした調査官になれると思います。そのためにも、今できること、今しかできないことを存分にしてもらいたいと思います。